

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年3月 28日

提出区分	実績	整理番号	14	課題区分	C		
横断的な課題	観光誘客や移住者増加につながる地域の魅力を高め、発信する						
地域重点政策	2 観光誘客や移住者増加につながる地域の魅力を高め、発信する						
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属	企画振興課	県立白馬高等学校
事業名	県立白馬高等学校魅力発信事業				電話	0261-23-6501	0261-72-2034
					E-mail	kirachi-kakaku@pref.nagano.lg.jp	hakuba-hs@pref.nagano.lg.jp
事業の概要等	目的 (目指す姿)	県立白馬高等学校は、県内唯一の国際観光科があり全国から生徒を受け入れている。また、特色ある学校づくりや、地域の高校としての取組に力を入れている。これら白馬高等学校の魅力を様々な手段で発信することで、多くの生徒の関心を高め、入学者数の増加を目指す。					
	現状と課題	人口減少や新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、入学者が減少した(令和元年度:72人、令和6年度:55人)ため、高校の全国募集や寮の運営を担当している白馬山麓事務組合では、県内外の中学校への訪問や、首都圏等での入学者説明会を開催する等、募集活動に力をいれて取り組んでいる。 取組の成果もあって、令和6年度の国際観光科入学者は募集定員を満たす人数であったが、普通科入学者は募集定員の半分に満たない人数であった。 地域の高校が魅力ある高校として存続していくことは、地域の活性化の重要な要素であるため、地域振興局と高校とが連携して、学校生活の魅力を広く発信するなどの取組を進めていく必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	大町市CATV、CATV白馬及び小谷村CATVにおいて、白馬高校でしか経験できない学校生活(授業内容、公営塾、部活動等)の魅力を紹介するCMを放送。入学者が減少傾向にある白馬村、小谷村出身者、特に普通科への入学者数の増加につなげるため、地元住民へ白馬高校の魅力を発信するとともに、同CMにて白馬高校YouTube Channel「白馬高校official PV」の検索案内を実施。 ○放送予定期間 : 令和6年12月から令和7年1月の2ヵ月間 ○放送エリア : 大町市(大町市CATV)及び白馬村(CATV白馬)、小谷村(小谷村CATV) ○CATV加入者数 : 大町市CATV 2,781世帯(令和6年9月30日現在) CATV白馬 4,450世帯(令和6年4月1日現在) 小谷村CATV 977世帯(令和6年5月31日現在) ○CM制作 : 白馬高校生徒が授業課題の中で制作 ○出演者 : 白馬高校生徒					
	事業期間	R6.10 ~ R7.3					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額		備考	
	CATV CM放送	大町市CATV、CATV白馬及び小谷村CATV CM放送		34,070		撮影用機材レンタル	
	合 計		34,070				
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況	
	令和7年度普通科入学者のうち白馬村、小谷村出身者数			10人以上	19人	◎ 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
	「白馬高校official PV」YouTube動画再生回数(令和7年3月末時点)			5,000回以上	5,110		
事業実績・成果	普通科の前期選抜募集人員20人のところ、定員を上回る23人(1.15倍)の志願があり、合格者20人のうち白馬村出身者は13人、小谷村出身者は2人の計15人と、前期選抜の時点で目標値を達成した。また、後期選抜については募集人員20人のところ志願者は10人(0.5倍)で定員割れとなったが、最終的に普通科の新入生は30人(うち、白馬村出身者17人、小谷村出身者2人)となり、令和6年度普通科新入生14人の倍以上の人員となった。白馬高校での地元中学校への入学者説明会等と併せて、入学者増加の一助となったと推測される。						
今後の方向性	引き続き、地域振興の観点からも高校と連携しながら魅力発信等に取り組んでいきたい。						